

IV 武士が治めた土佐^{とさ}

(1) 山内一豊の入国^{やまうちかずとよ にゆう こく}

ていこうする一領具足^{いちりょうくそく(1)} 1601年、長宗我部氏^{ちようそがべ}にかわって、山内一豊が土佐の国守^{こくしゆ}として、浦戸^{うらど}（高知市）にやってきました。

一豊は、掛川^{かけがわ}（静岡県掛川市）6万石の大名でしたが、関ヶ原^{せきがはら}（岐阜県）の戦いで、徳川方^{とくがわ}について活やくしたため、徳川家康よりほうびとして、土佐24万石をあたえられたのです。

しかし、一豊は、たやすく土佐に入国できたわけではありません。

一領具足といわれる長宗我部氏の元の家来^{ろく(2)}たちは、主人をほろぼされて禄を失ううえに、重い年貢を取られるかも知れないと、浦戸^{うらど}で一揆^{いっき}を起こして、はげしく抵抗^{ていこう}しました。

一揆は、まもなくしずめられ、一領具足の首273は、浦戸^{つじ}の辻にさらされたのち、塩づけ^{おおさか}にして、大阪へ送られたといわれています。

一豊より先に入国した弟の山内康豊^{やすとよ}は、山内氏に不安や不満をもって、山中ににげこん

山内一豊画像（山内神社宝物資料館^{ほうもつ}）



一領具足供養の六体地蔵^{くよう ろくたいじぞう}（高知市浦戸）



だ農民いちりょうぐ そくや一領具足そくたちに、家に帰るようにすすめるとともに、長宗ちようそ我部がべ氏の政治のしかたを守っていくので安心せよ、というおふれを出しました。

このようにしたうえで、一豊かずとよは、多くの家来を連れて、浦戸うらどにやってきました。

その後、領内りょうないを見まわり、国のまもりや農民のくらしなどを視察しきつしました。そして、弟の山内康豊やまうちやすとよをはじめ、重臣じゆうしんたちを領内各地に配置はいちして、土佐藩とさはんの政治がいきわたるようにしました。

高知城じようの築城ちくじようと町づくり 山内一豊は、土佐藩の政治をすすめるうえで、浦戸はつごうが悪いと考え、高知城きずを築くことにしました。

そこで、徳川家康とくがわいえやすの許しを得て、1601年9月から工事にとりかかりました。

工事に使う石や木材は、近くの村々から運ばれました。かわらは、大阪おおさかから船でとりよせられました。

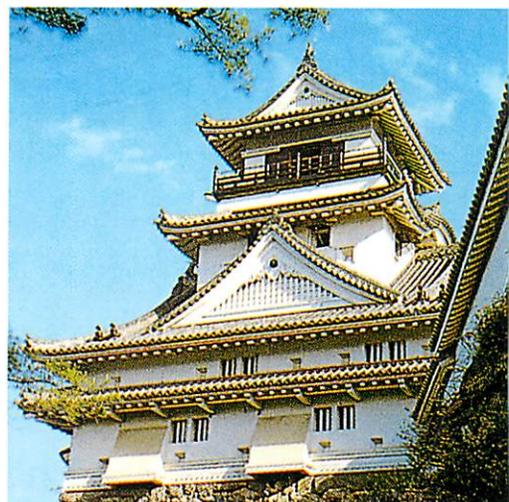
家来はもとより、町人や近くの農民、それに年よりや子どもまで、1日に1300人にんもの人夫ぶが集められ、日当にっとうとして、わずか米7合(980g)とみそ代があたえられたそうです。

1603年には本丸ができあがり、一豊は、その年の8月に浦戸から入城してきました。

ところで、工事が続けられていた1603年11月、庄屋しょうやの高石左馬之助たかいし さのすけ(3)は、山内やまうち氏の重い年貢ねんぐに反対して、農民たちとともに滝山たきやま(本山町もとやま)で一揆いっきを起こしました。

その力はたいへん強く、山内氏もてこずりましたが、やがてしず

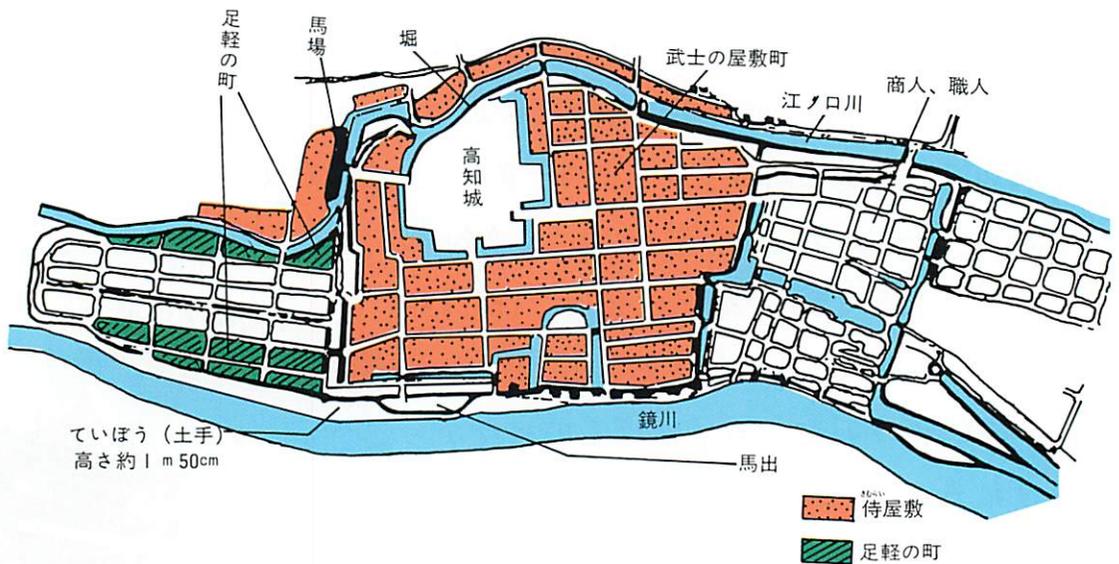
高知城てんしゆかく天守閣



められました。左馬之助^{さまのすけ}と弟の高石吉之介^{たかいしきちのすけ}は、どこかへすがたをかくしましたが、多くの農民はころされたり、自害^{じがい}したりしました。

これが、本山一揆^{もとやまいっき}（滝山一揆ともいう）です。

一豊^{かずとよ}は、町づくりにもとりかかりました。城のまわりに堀^{ほり}をつくり、鏡川^{かがみ}にていぼうを築いて、町をつくりました。



城下町絵図（1667年）

城の近くに武士の屋敷町^{やしき}、その外側に商人や職人の町^{えのくち}、江ノロ川のほとりなどに足軽の町^{あしがら}を、それぞれつくりました。こうして、高知の城下町^{じょうかまち}が生まれました。

町名には、京都から来た商人のいた京町^{きょう}、大阪の堺にちなんだ堺町^{さかい}、山内氏についてきた人の掛川町^{かけがわ}、また職業によって、細工町^{さいく}、紺屋町^{こんや}、材木町などがありました。領内各地から移ってきた人の浦戸町^{うら}、蓮池町^{はすいけ}、山田町^{やまだ}などもありました。

こうして、町は年とともに大きくなり、1661年の調査によれば、町の数28、戸数は2185軒^{けん}、人口は17,054人もいたようです。

と さ はん か ろう いぬい け せき が ほら ぎ ふ やまうち かず
土佐藩の家老一乾家 関ヶ原 (岐阜県) の戦いのあと、山内一
とよ 豊の入国にともない土佐にやってきた重臣のひとりに、乾和三が
かづみつ
います。

和三は、土佐に入国後家老として、国分・比江に領地をあたえら
れ、比江山には菩提寺として永源寺を建てています。

この寺のうしろには、「乾の大墓」といわれる乾家の墓所があり
ますが、この巨大な墓石は、摂津 (大阪府) から船で運ばれ、大津
でおつ
で陸上げののち、比江に運ばれたといわれています。

乾家の墓所 (南国市比江、永源寺裏)



注(1) 一領具足 長宗我部元親の軍隊の主力となった農民兵で、ふだんは田畑をたがやし、戦時に
せんじ
はよろい一つ (一領) と馬 (具足) で戦場にかけてつた。

(2) 禄 おかみからの扶持米。役人、武士の給与。

(3) 高石左馬之助 滝山一揆 (本山一揆) をおこした人。北山 (本山町) の庄屋であったが、山
なかいしやまのすけ たきやまいっき もとやま きたやま しやうの
内氏の重い年貢に反対して、農民たちを集め滝山 (本山町) に立てこもり、山内軍を相手
ねんご
にはげしく戦う。やがてしづめられ、讃岐 (香川県) へのがれたという。